

## TOUGHプログラム修了式



鳥取大学グローバル人材育成教育プログラム（以下、「TOUGHプログラム」という）の基礎力養成コース、グローバル強化コースを修了した合計2名の学生に認定証を授与しました。

TOUGHプログラムは、平成24年度に文部科学省に採択された「経済社会の発展をけん引するグローバル人材育成支援」により平成28年度に本学が構築したプログラムです。基礎力養成コース、強化コースそれぞれに国際活動ポイント、語学力などの厳しい修了要件が課されています。



## 原田 美郷さん [農学部4年]

語学強化コースの中で自分の考えをまとめ、英語で表現することを通じ、自分の意見を伝える姿勢を身に着け、人間力を磨くことが出来ました。これからもグローバル人材となれるよう精進したいです。

## 芝田 優里さん [農学部4年]

TOUGHプログラムでの出会いもあり、いい経験をすることが出来ました。来年からの就職先では海外との関わりがあるので、積極的に頑張っていきたいと思います。

## 学長と留学生との懇談会を開催！

鳥取大学には現在、162名（2023年1月現在）の外国人留学生が在籍しています。

彼らが本学での勉学に励み、研究に従事する中で、日々感じていることや困っていることなどを共有してもらい、今後の留学生サポートや更なる大学のグローバル化につなげることを目的とした、「学長と外国人留学生との懇談会」を実施しました。

懇談会は日本語圏と英語圏の2グループに分かれて実施し、それぞれ9名の学生が中島学長、田村理事（教育担当、国際交流担当）・副学長、安延副学長（国際交流推進担当）・国際交流センター長と話し合いました。

懇談会では留学生から「鳥取大学に留学してみて感じたこと」として「授業料免除や様々なサポートがあってうれしい」や「コロナでイベントが減って残念だ」といった感想があり、また「鳥取大学への意見・要望」としては「滞在期間が短い留学生用に自転車を貸し出してほしい」や「生活にかかる書類に英語の説明をつけてほしい」などの要望がありました。留学生からの意見や質問の後には先生方からの質問に留学生が答えるなど、懇談会は終始和やかな雰囲気で行われました。



## 鳥取大学国際交流センター

Center for International Affairs, Tottori University

〒680-8550 鳥取市湖山町南4丁目101番地

TEL.0857-31-5056(国際交流課) <https://www.ciatu.tottori-u.ac.jp/ja>



発行:2023年3月

# 鳥取大学

## 新規マレーシアプログラム

# 新しい留学が 始動!



2023年度からスタート!

# マレーシア海外実践教育プログラム

本学では様々なタイプの留学プログラムがありますが、このたび新たなプログラムが誕生します。

従来の英語力向上・異文化研修メインのものを発展させ、現地学生と共に、より実践的に学べるようプランニングしています。

担当教員であるチャン・チェオン・ジェン教授に、その特徴、内容をお伺いしました。

教室はマレーシアの実社会  
現地学生と共に学ぶ実践型!

マレーシアの留学プログラムは、これまで夏期・春期に行ってています。こちらは主に英語力の向上を目的としており、マラヤ大学で英語の授業を受講するというのですが、新しく構築したプログラムはこれとは全くデザインが異なります。

特徴は大きく2つ。一つは、学びの場が「実社会」だということです。大学の教室で授業を受けるのではなく、少人数のグループを編成し、街の中の様々な場所へ出かけていきます。マレーシア社会の実情を自分の目で見、現地の人々の話を聞き、仲間と話し合うことで自分の考えを深めていきます。

もう一つの特徴は、現地学生と「対等に学ぶ」ということ。このプログラムは鳥大生だけではなく、協力大学であるプトラ大学の学生のためのものもあるのです。ですから、グループの半数はプトラ大生であり、彼らは、語学研修における受け入れ大学側の“協力者”ではなく、“共に学ぶ仲間”。同じ立場で関わり合うことは、互いの学びをさらに高めてくれることでしょう。

*observing  
and questioning*

日本にはない多民族社会が  
新しい気付きをくれる

フィールドワーク中心の海外実践教育プログラムは、メキシコやウガンダでも行っています。ではなぜ、今回マレーシアのプログラムを新設したかというと、多民族国家ならではの社会事情が学生たちに深い学びを与えると考えたからです。

マレーシアは、マレー系、華人系、インド系など民族構成が極めて複雑で、多文化社会そのもの。話す言語も違えば、生活習慣も食べ物も、信仰する宗教も異なります。日本とは全く違う社会に直面することは、カルチャーショックに近いような衝撃を受けることでしょう。

コミュニケーションに対する意識も同様です。民族ごとに異なる言語を使うマレーシアでは、相手の言うことがよく分からるのは日常茶飯事。準公用語の英語であっても、訛りが強くて聞き取れないこともあります。また、マレーシア人は、相手のことを理解したい、自分の気持ちを伝えたいという意欲が旺盛です。コミュニケーションで大事なのは語学力の高さではない、「passion to communication」なのだと気付いてほしいと考えています。すると、そこから新しい動機付けが生まれるはずです。

物事の本質を見極める力、  
思考する力を養う機会に

多くの学びが得られるよう、訪問場所の設定も工夫しています。ある日は現地のコミュニティーを訪問し、どんな文化背景の中でどのように暮らしているのか住民に話を聞きます。またある日は、JICA(独立行政法人国際協力機構)、JETRO(独立行政法人日本貿易振興機構)など日本政府関連機関の現地事務所へ。日本がマレーシアで行っている国際協力事業や、日本企業のビジネス展開等について伺います。また、現地の日本企業を訪ね、社員の方に“海外で働く”経験を聞くことは、学生の皆さんのが将来的可能性を大きく広げることになるでしょう。

国際理解を深めるにしても、グローバル力を養うにしても、「本当のものを見る」必要があります。楽しむだけの海外旅行のような感覚から離れ、あまり見たくないものであっても、まずは社会の現実を直視する。その上で物事を客観的に捉え、分析・検証する「critical thinking」をしてほしいと考えています。すると、そこから新しい動機付けが生まれるはずです。

新プログラムの研修期間は9日間、募集人数は10~20人程度、学部学科、語学力は問いません。2023年度開始予定で、現在準備を進めているところです。皆さん、楽しみにしてください!



CHAN CHEONG JAN 教授

チャン チェオン ジエン

教育支援・国際交流推進機構 国際交流センター

マレーシア  
ファーストステップ  
英語・異文化研修  
(Summer Enrichment Programme)

マレーシアでは  
こんなプログラムも!



初～中級

マレーシア留学プログラムは、ほかにもあります。本学の協定校であるマラヤ大学への留学プログラム「マレーシアファーストステップ英語・異文化研修」です。

英語の授業だけでなく、マレーシアの文化を学び、週末にはバスで出かけて、多文化・多民族の環境の中で英語の向上と国際感覚を身につけることを目的としています。

留学中は、マラヤ大学の学生がパディ(Teaching Assistant)として参加学生のパートナーとなり、授業だけでなく、生活面もサポート!

マレーシアおよび日本に関する事柄について相互に学び合うことをとおして、英語でのコミュニケーション力を養います。

## 研修内容・特徴

マラヤ大学の学生(パディ)と  
毎日英語で過ごす

全60時間の  
英語の授業

レベル別  
クラス

マラヤ大学の  
学生がパディー<sup>として</sup>サポート



初級から英語が学べます

### 主な研修先

マラヤ大学  
(マレーシア・クアランブル市)

### 宿泊先

マラヤ大学学生寮 等

研修期間  
(2~3月)

### 参加費用

約35万円

募集人数

20名

単位認定 … 単位認定申請をすることができます